

三陸中部森林管理署	
タイトル	民国連携による森林共同施業団地内における現地検討会
実施年月日	平成25年9月20日（金）
実施場所	岩手県釜石市橋野町 橋野第二国有林403林班、釜石市市有林
参加者	局署：東北森林管理局、三陸中部森林管理署 11名 外部：岩手県沿岸広域振興局農林部、同大船渡農林振興センター （独）森林総合研究所森林農地整備センター 盛岡水源林整備事務所 釜石市、大船渡市、釜石地方森林組合、気仙地方森林組合、 三陸中部国有林材生産協同組合、署管内林業事業体等 20名 計 31名
<p><b>【取組の概要】</b> 平成24年3月に民有林と国有林が連携して森林整備を進めるため、当署と釜石市及び釜石地方森林組合の三者による「釜石市初神上台地域森林共同施業団地」の設定に関する協定を締結し、昨年度は国有林側の既設路網の補修、それと接続した民有林の森林作業道の開設を行った。 今年度は、その路網を利用した間伐を国有林と市有林で実施し森林の整備を推進することと併せて、東日本大震災の復興対策として、今後住宅等の再建が本格化してくる中で必要な木材の安定供給、林地残材の再生可能エネルギーとしての木質バイオマスを資源への有効活用などについて、現地検討会を開催した。</p>	
<p><b>【取組の成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国有林の路網を利用することにより、これまで手入れの不十分だった市有林の森林整備が進み、搬出間伐を行うことができた。（釜石市）</li> <li>・釜石地方森林組合では労働生産性の向上に向け作業手順の見直しを行い、高性能林業機械（グラップル付きフォワーダ）を使用することによるセット人員の少数化、機械台数の減による運搬経費の削減などを行っており、作業システムについて現地で一連の作業を見学し、情報共有を図ることができた。</li> <li>・継続的に使用する森林作業道は、排水処理が重要であることを再認識した。</li> </ul>	
<p><b>【出された意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初回間伐では林分状況等も勘察し、定性の切捨て間伐を実施した後で列状間伐を実施した方がよいのではないかと。</li> <li>・グラップル付きフォワーダ（IHI社製）の走行性能の良さを実感した。</li> <li>・高性能林業機械の導入による工程アップはわかるが、現状は予算的な問題もあり、購入・更新が難しい。</li> <li>・24年度に作設した森林作業道と接近した箇所には作業道を計画している理由は？ （回答）民有林と国有林で搬出する際に路網が競合した場合、待避路的に利用することを考慮した。</li> </ul>	
<p><b>【今後の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな団地化の設定に当たっては、相互に利用できる中間土場の作設、素材の安定供給を図っていく上で販売協定などの取組が必要である。</li> </ul>	

タ イ ト ル

民国連携による森林共同施業団地内における現地検討会



署長挨拶



現地概要の説明（国有林）



列状間伐箇所の検討（国有林）



作業システムの説明（民有林）



プロセッサによる造材（民有林）



グラップル付きフォワーダによる運材（民有林）